

万博公園 春の渡り鳥調査結果

本調査は、吹田野鳥の会が万博公園における「春の渡り鳥」の調査を実施し、その結果を基に、大阪府内の大規模公園との比較をおこないました。

単年度の結果により考察するのではなく、より多くの調査結果を基に、精度の高い資料とするため、平成16年度も引き続き「春の渡り鳥」の調査をおこなうものです。

(目次)



1. 調査の企画	1 ~
2. 調査詳細計画	2 ~
3. 調査結果	3 ~
4. 調査結果の考察	6 ~
5. まとめ	9
6. 参考図表	10 ~ 19

製作： 吹田野鳥の会

協力：独立行政法人 日本万国博覧会記念機構

万博公園の春の渡り鳥調査結果

平成 15(03)年 6 月 30 日

吹田野鳥の会

調査の企画

1. 調査目的

万博公園は大阪府で最も広い緑地を持つ都市公園で、植えられた樹木が 300 種、100 万本と多く、人にはもちろん鳥にとっても安らぎの得られる場所として、季節を問わずいろんな鳥たちに利用されている。

しかし、春の渡り鳥については日本野鳥の会関係者の体験から定性的ではあるが、「万博公園は大阪城公園より春の渡り鳥が少ないのではないか」と言われている。そこで万博公園を通過する春の渡りの小鳥が本当に少ないかどうかを、渡りの季節に連日調査することで確認することとした。

また、吹田野鳥の会では 03 年秋 10～11 月、万博公園内の自然観察学習館において「野鳥写真展」を予定しているが、万博公園で撮影された春の渡り鳥の写真が少ないので調査時に写真撮影を行うとともに、調査結果のまとめも同写真展において公開したい。

2. これまでの状況

日本野鳥の会大阪支部が万博公園で毎月 1 回の定例探鳥会を(昭和 60 年 2 月)に開始し、本年 2 月で丸 18 年となったが、00 年 12 月に 200 回となったことから、この間の探鳥会で観察した鳥について定例探鳥会主担当(平)がまとめ、集約結果を大阪支部報第 90 号(01 年 3 月発行)に報告した。

万博公園が大阪城公園や大泉緑地に比べ春の渡りの(林の)小鳥が少ないのではないかと言われていたため、その集約に当たっては、ほぼ似たような大阪府内にある四つの大きな都市公園(万博公園・服部緑地・大泉緑地・大阪城公園)の鳥について 96 年～99 年までの 4 年間の探鳥会で観察された、いわゆる「ヒタキの仲間」4 科の鳥(春の渡りの小鳥の大部分が含まれる)を比較した。

他の三公園の緑地面積は万博公園より幾分小さいと思われる中で、万博公園の渡り鳥は服部緑地とはほぼ同レベルにあったものの、大泉緑地や大阪城公園に比し明らかに少なく、観察種数・観察頻度がとも大きく下回ることが確認された。

公園名	定例開催日	観察種数	観察頻度(探鳥会 1 回当り)
・万博公園	第 2 土曜	16 種	2.6 種 / 回
・服部緑地	第 2 土曜	15 種	2.3 種 / 回
・大泉緑地	第 2 日曜	23 種	3.6 種 / 回
・大阪城公園	第 4 日曜	26 種	4.3 種 / 回
合計(全体)		29 種	3.2 種 / 回

注 1) 春の渡り鳥(ヒタキの仲間)の 4 科

・ツグミ科 (ノゴマ・コマドリ・コルリ・ノビタキ・クロツグミ・アカハラ等)

- ・ウグイス科（ヤブサメ・メボソムシクイ・エゾムシクイ・センダイムシクイ等）
- ・ヒタキ科（キビタキ・オオルリ・コサメビタキ・エゾビタキ等）
- ・カササギヒタキ科（サンコウチョウ）

注2）観察結果には4科に含まれるツグミ・シロハラなど越冬種や、ムギマキなど秋の渡り鳥なども入っているので、厳密な春の渡り鳥という意味では若干の誤差があるが、上記の結論をくつがえすほどの影響はないとした。

3. 万博公園に春の渡りの小鳥が少ない理由

このように万博公園に春の渡り鳥が少ない理由として、下記の3点が考えられる。

大阪城公園の開催日条件が良い。

春の渡りのピークは4月下旬であり、探鳥会が第4日曜日開催の大阪城公園で渡りの小鳥がよく観察できるのでないか。

但し、大阪城公園では探鳥会以外の日にも渡り鳥が良く観察されている。

万博以外の公園は、朝早くからの入園・観察が可能である。

万博公園は入園が午前9時30分のため、朝の早い春の渡り鳥は「さえずり」を終えてしまっているのを見つけにくい。

このことが、今回の早朝調査を企画した最大理由である。

万博公園を通過する春の渡り鳥は、本当に少ない。

しかしこの場合、原因を究明し結論を出すことは難しい。

このように、万博公園の春の渡り鳥が本当に少ないかどうかを、早朝入園して調査することとした。

調査計画詳細

1. 調査計画概要

万博公園に渡り鳥が少ない理由が、開催日・開催時間条件かどうかを確認するために、以下のような調査を計画した。

- ・計画名 万博公園春の渡り鳥調査
- ・調査期間 4月15日～5月5日の間(毎日)
- ・調査時間 午前7時30分～12時頃まで
- ・調査者 吹田野鳥の会会員数名一組(交替で)
- ・調査方法 園内を一巡し、渡り鳥がいた所を地図上にプロット
- ・写真撮影 調査と同時に、可能であれば写真展用の写真を撮影
- ・調査報告 5月未完了目標で作成
- ・報告内容 日時、鳥の種名、個体数、確認した場所などを簡単に集約
- ・写真展での公開 10～11月開催の写真展で写真、調査結果データを公開

2. 早朝入園日について

上記調査を実行するために早朝入園許可、即ち4月15日～5月5日までの毎日、午前7

時 30 分に千里橋ゲートから自然文化園への早朝入園許可願を万博協会に提出した。

その結果、万博協会から平日の早朝入園に問題ないが、休祝日は通常開園時間のスタートにしてほしいとのこと。そこで、平日・土曜は 7 時 30 分、休日・祝日は 9 時 30 分スタートで調査を行うこととした。

3. 調査コース

調査は広い万博公園を効率よくカバーし、午前中に終了したいことから、毎日必ず調査する場所として下津道沿いに 4 ヶ所設定した。

- ・千里橋～にれの池南
- ・水草の池
- ・渡りの沼
- ・水鳥の池

それ以外は前日の状況と、当日の渡り鳥のさえずりなどにより臨機応変に調査個所を変更し確認することとした。

実際には調査 4 ヶ所外としていた「しょうぶ池」付近が、オオルリを中心とする渡り鳥の良く確認できる場所とわかり、次の日の調査担当者に申し送りすることでカバーした。

4. 調査書様式

毎日の調査書様式は以下の 2 枚とした。

地図 渡り鳥のいた所の番号を記入

調査シート 鳥の名前といた所の番号の記入

を組み合わせ、種毎のマップを作ることを目的とした。尚、調査シートには、渡り鳥の観察できる場所を 20 ヶ所まで記入できるようにしていたが、実績最大は 9 ヶ所に止まった。また、調査シートのメモ欄には渡り鳥以外の観察種や、渡りの状況を記入してもらうようにした。

5. 調査者日程

吹田野鳥の会幹事を中心に調査者を募り、都合のつく日を確認し、一組 = 1 日 3 人～ 5 人をベースに調査入園することとして日程を決定した。

後で都合の悪い人がでた場合は他の人に代わってもらったこととした結果、ほぼ当初の人員配置で調査ができた。

調査結果

1. 調査日・調査者実績

当初予定していた調査日のうち、雨が激しかった 4 月 30 日のみ中止したが、それ以外は小雨の日も調査を決行したことから、実調査日数は 20 日間となった。

この間調査に協力した人は 16 名、それぞれが数回ずつ参加した結果、延べ調査者数（工数）は 68 名となった。

2. 調査結果

1) 観察した渡り鳥

今回の調査で確認したいとして、当初からリストアップしていた渡り鳥は、ツグミ科7種・ウグイス科5種・ヒタキ科6種・カササギビタキ科1種と、いわゆるヒタキの仲間4科19種であったが、調査で実際に確認できたのは下記の3科10種に止まった。

- ・ツグミ科 3種(コマドリ・クロツグミ・アカハラ)
- ・ウグイス科 5種(ヤブサメ・オオヨシキリ・メボソムシクイ・エゾムシクイ・センダイムシクイ)
- ・ヒタキ科 2種(キビタキ・オオルリ)

このうちオオルリ・キビタキなどは定例探鳥会でも何回か観察していたが、定例探鳥会で観察していなかった種としては、コマドリ・クロツグミ・ヤブサメの3種が新しく確認できた(但し、探鳥会以外では個人による観察記録あり)。

また、3科以外の渡り鳥として、チドリ科コチドリ、ハタオリドリ科ニュウナイスズメ、ホオジロ科クロジを確認したので、参考として調査結果に加えた。

2) 種毎の個体数

観察した種毎の個体数は、表1に示した。

ヒタキの仲間、個体数が最も多かったのはオオルリで総数25羽、一日最大数9羽(4/23)、確認日数8日であった。続くキビタキは総数11羽に止まったが、確認日数9日と多かった。声での確認が中心となるムシクイの仲間では、センダイムシクイが多かった。

表1 春の渡り鳥(ヒタキの仲間) (羽数)

No	科名	種名	計	No	科名	種名	計
1	ツグミ	コマドリ	2	6	ウグイス	メボソムシクイ	2
2	ツグミ	クロツグミ	2	7	ウグイス	エゾムシクイ	2
3	ツグミ	アカハラ	3	8	ウグイス	センダイムシクイ	7
4	ウグイス	ヤブサメ	2	9	ヒタキ	キビタキ	11
5	ウグイス	オオヨシキリ	1	10	ヒタキ	オオルリ	25
				計			57

この種別・日別詳細データは表4に、日別の観察種・個体数の推移を縦棒グラフは図1、20日間の観察種別個体数は円グラフで図2に示した。

3) ヒタキの仲間以外の観察種

表2 ヒタキの仲間以外

11	チドリ	コチドリ	5
12	ハタオリドリ	ニュウナイスズメ	202
13	ホオジロ	クロジ	2
計			209

ヒタキの仲間3科以外の鳥でのトピックスは、ニュウナイスズメの大群が、万博公園を通過していたことである(表2、及び図3)。

ニュウナイスズメは大阪近郊で越冬しているので、

春の渡り鳥というよりは冬鳥が北帰行途中に立ち寄ったもので、4/22～27の間、園内に滞在していたと推定されるが、最大数は4/26に100羽以上(=50+羽×2ヶ所)であった。尚、この間の4/24に確認できなかったのは雨で視界が悪かったことによるもので、いなかったということではない。

ニュウナイスズメの観察結果から言えるのは、渡り鳥には一日で通過するものがあると思われるが、数日間滞在する鳥のあることが確認されたことである。鳥は気象条件を見ながら渡りをするためと推定され、ニュウナイスズメ以外の種においても、今回、確認した個体数がそのまま万博を通過した渡り鳥の絶対数ではないことが推定された。

）渡り鳥以外の鳥

今回の早朝調査で確認した鳥は渡り鳥を含め51種(表3)であった。

日別の観察種数推移は表5に示し、また図4には種数推移を縦棒グラフ、春の渡り鳥の種数を折れ線で併記した。日別の観察種数が最も多かったのは、春の渡り鳥も多かった4月25日前後、冬鳥が残っていたこともあって30種を上回る日もあった。5月に入ると渡り鳥が少ないことに冬鳥が渡去したことが加わり、20種を下回るまでに減少した。

表3 観察した鳥のリスト

(観察回数 / 20回当り)

種名		観察回数 (/ 20回)	種名		観察回数 (/ 20回)	種名		観察回数 (/ 20回)
1	カイツブリ	16	19	ビンズイ	7	37	ヤマガラ	10
2	カワウ	18	20	ヒヨドリ	20	38	シジュウカラ	20
3	コサギ	6	21	コマドリ	2	39	メジロ	20
4	アオサギ	15	22	ルリビタキ	1	40	アオジ	17
5	マガモ	9	23	トラツグミ	1	41	クロジ	2
6	カルガモ	18	24	クロツグミ	2	42	アトリ	3
7	オオタカ	2	25	アカハラ	3	43	カワラヒワ	19
8	バン	11	26	シロハラ	14	44	マヒワ	7
9	コチドリ	3	27	ツグミ	20	45	イカル	13
10	カモメSP	1	28	ヤブサメ	2	46	シメ	10
11	キジバト	18	29	ウグイス	11	47	ニュウナイスズメ	5
12	アオバト	1	30	オオヨシキリ	1	48	スズメ	19
13	カワセミ	1	31	メボソムシクイ	2	49	ムクドリ	20
14	アオゲラ	2	32	エゾムシクイ	2	50	ハシボソガラス	20
15	コゲラ	19	33	センダイムシクイ	7	51	ハシブトガラス	20
16	ツバメ	15	34	キビタキ	9	計		507
17	ハクセキレイ	10	35	オオルリ	8			
18	セグロセキレイ	12	36	エナガ	13			

このように、今回の調査で春の渡り鳥以外に特記すべきことは、冬鳥の渡去状況である。

- ・**冬鳥の終認日** 渡り鳥の調査ということで、渡り鳥以外はカウントせず観察のみにとどめたが、主な冬鳥の終認日(越冬地として最終確認日)は以下の通りであった。
マヒワ 4/27 アトリ 4/18 シメ 4/28 シロハラ 4/28
ツグミ 5/10 (調査期間外であるが、5月度万博定例探鳥会で確認)
マヒワ・アトリのみでなく、ツグミ・シロハラ・アオジなどの冬鳥が日毎に減少していく傾向が見られたので、今後、春の渡り鳥調査時には冬鳥の渡去について平行調査することも考えたい。
- ・**マヒワ** 万博公園で越冬したマヒワは上述の通り 4/27 まで滞在していたが、4/22,4/26 には、日本庭園東側などでニューナイスズメの群と一緒に 50 羽~100 羽で行動しているのが観察できた。
- ・**アトリ** 今冬の万博公園で最も目だった冬鳥はアトリであったが、今回の調査時では 4/17 まで、東の広場の芝生上を 100 羽前後の大群が飛び回っていた。
- ・**カワセミ** 冬鳥以外ではカワセミが 1 回しか観察できなかった。今回調査の重点を自然文化園の林とし、日本庭園は時間に余裕があれば回る程度としたこと、自然文化園内でもカワセミのいる水すましの池・砂の広場など、水辺を必ず調査する個所として指定しなかったことによる。

④ 観察場所

今回、渡り鳥を観察した場所は、オオルリ、キビタキ、ウグイス科、ツグミ科、そしてヒタキの仲間以外の渡り鳥に分け、図 5 ~ 9 の地図上にプロットした。

その結果、「しょうぶ池」周辺がオオルリ、ウグイス科のメボソムシクイ・センダイムシクイ・ヤブサメ、そしてクロツグミが確認されるなど、観察種数・個体数が多く、万博公園内では渡り鳥が集まる最良のポイントと推定された。しかしそれ以外の場所は集中度がそれほどでなく渡り鳥のポイントと特定できる所はなかった。

万博公園の春の渡り鳥は園内全域に分散していて、必ず観察できるポイントが見つからないままに、シーズンを終えることとなった。

調査結果の考察

1. 調査期間について

今回の調査期間は 4/15 ~ 5/5 としたが、

- ・ほぼ毎日渡り鳥が観察できたこと
- ・5/10 大阪支部定例探鳥会で 4 種の渡り鳥を確認したこと
(キビタキ・コサメビタキ・オオヨシキリ・メボソムシクイ)
- ・4/14 以前にも渡り鳥が観察されていること

などから、シーズンの全数を確認・カウントするということであれば、調査期間を更に前

後に広げることが必要となる。

しかし、今回の調査期間のほぼ真ん中、4/22～4/26 に春の渡りのピークがあることははっきりしたので、渡り鳥の最大数や、多い場所＝観察ポイントを確認することであれば、今回の調査期間で良いことになる。

期間後半のゴールデンウィークが、

- ・休祝日で早朝入園できなかったこと
- ・園内に人出が多いこと
- ・渡りのピークが過ぎていたこと

などから、渡り鳥があまり確認できなかったことから、後へ延ばす必要はあまりないように思われる。

従って、来年度以降以降も調査を実施する場合、

- ・万博公園に本当に渡り鳥が少ないかどうか
- ・園内の何処に渡り鳥観察のポイントがあるか
- ・渡り鳥の全数を記録する必要性は

など調査目的をはっきりさせて、調査時期や期間を設定する必要がある。

2. 他の公園との比較

万博公園の状況は上記の通りであるが、万博公園以外での渡り鳥の観察記録として、大阪城公園と紫金山公園の観察データを比較した。両公園のデータは万博公園のように、正式な調査を行ったものではなく、断片的な観察情報連絡を集約したので精度の問題はあるが、渡り鳥の種数については比較できるとして参考までに示した。

表4 他の公園との比較

公園名	観察回数	サンショウクイ	アカハラ	クロツグミ	コマドリ	コルリ	ノゴマ	マミジロ	マミチャジナイ	エゾムシクイ	オオヨシキリ	センダイムシクイ	メボソムシクイ	ヤブサメ	オオルリ	キビタキ	ムギマキ	コサメビタキ	サンコウチョウ	観察種数計
万博公園	／20回		3	2	2					2	1	7	1	2	8	9				10
大阪城公園	／17回	1	9	3	10	9	2	2	1	5		7	2	3	10	12	1	1	1	17
紫金山公園	／9回		6	1		1				4	1	6			5	3				8

大阪城公園の渡り鳥

大阪城公園は大阪府内で春の渡り鳥が最も良く観察できる名所となっており、渡りの季節には多数の人が観察に行っている。今年4月～5月に平が受信した大阪城公園の渡り鳥の情報を中心にまとめた結果は上表の通りであるが、日別詳細は表8に示した。

何人かの人からのメール情報の集約であり個体数の正確さに欠けるが、種数はほぼ間違いないと思われる。4月中旬～5月上旬に確認された春の渡り鳥は17種、そして8種観察できた日が4/18、4/26、4/29、5/2と4回もあるなど、種数はトータル・一日当たり共、万博に比べかなり多いことがわかる。しかも渡り鳥が最も良く観察できる場所が音楽堂裏に特定されていて、誰でも観察できるのが特徴である。

②)紫金山公園の渡り鳥

吹田市の紫金山公園は、毎年10種前後の渡り鳥が間近に観察できる好ポイントである。今年も万博調査などのため観察日が少ないが、結果は表9に示したようにいろんな渡り鳥がいて、面積が10haと狭いこともあって、来ている渡り鳥は必ず観察できるのが特徴的である。

3. 調査者の感想

調査者各員に今回の調査についての感想文をもらい、それから抜粋して集約表にした。

主な点は、

- ・万博に渡り鳥が少なく、観察ポイントが把握できなかった
 反対に、思いのほか多かったとの感想もあった。
- ・来年以降も調査を継続すべき
- ・日祝日も、早朝入園（午前7時30分）すべき

などであった。

表5 調査者の感想

調査者	全体の印象	渡り鳥の数	来年以降の調査	開始時間	その他
Aさん	有意義であった	少なかった	3年程度継続	日祝日も7時30分入場	調査担当日が集中しないよう、調査者を幹事以外に広げる
Bさん	鳥が少なく、調査ポイントが絞れなかった	予想以上に少なかった	最低3年程度継続	日祝日こそ7時30分入場	鳥が少ないのは、手入れのやりすぎ、下草の刈りすぎ、農薬散布でないか
Cさん	調査は有意義だった	少ないものの、予想よりは多かった	調査ポイントがわかるまで	日祝日も7時30分入場	冬鳥のいる間(5月初旬まで)は、芝生に農薬をまかないようにしてほしい
Dさん		ニューナイズムは良かったが、それ以外は少なかった			
Eさん	意外な程沢山の夏鳥がいて、さすが万博公園！大阪一のフィールド。	予想以上に多かった			箕面の山がすぐ近くにあるので「渡り鳥は万博に降りない」という仮説が崩れた
Fさん	渡り鳥のさえずりを聞き、姿が見られてよかった	いろんな渡り鳥に出会えた	鳥の休息場所の目安が出つつあるが、最低2～3年は継続すべき	日祝日も7時30分入場	一部の調査者に負担が集中しないよう、調査者の範囲を広げる
Gさん	全体に整然と調査されていた	思いの外、種数は多かった	3年くらい継続調査が望ましい継続時の調査内容はいたずらに精緻すぎないこと	公園整備との兼ね合いもある、できれば7時スタートが望ましい	調査時期は今年と同じが望ましいバンディングの併用も考えられる

4. 万博公園に春の渡り鳥が多いか少ないか

今回調査の主目的は「万博公園に春の渡り鳥が少ない」と思われている状況を、覆すことができないかということにあった。そのため、

- ・ピークが4月下旬にあるとして調査時期を設定した
- ・早朝入園をした

結果、ピークは予想通り4月下旬にあったこと、また早朝入園の効果も大きく、渡り鳥の数は当初に想定したレベルより多かった。しかし、今回の調査結果を大阪城公園などと比較すると、「万博公園に渡り鳥が多かった」とはならず、「万博公園にも春の渡り鳥がそこそこ通過しているレベル」と言わざるを得ない状況で終わった。

1年の調査で結論を出すのは早計であるため、2～3年継続調査によりデータを蓄積し、万博公園の渡り鳥についての全体像を出したいと考えている。

5. 渡り鳥の写真撮影について

尚、今秋予定している写真展用の鳥の撮影も、早朝入園の目的の一つとしていたが、クロツグミ・オオルリ・キビタキ・コサメビタキ・ニュウナイスズメ、そしてマヒワなどの写真をとることができた。

まとめ

「万博公園に春の渡り鳥が少ないのではないか」と定性的に言われていることを確認するため、万博公園に早朝入園して調査を行った。その結果、「**思いのほか渡り鳥が通過しているものの、そのレベルは大阪城公園に比べ少ない**」という従来情報を追認することとなった。

しかし、万博公園は面積が広いので通過している鳥すべてをカバーしたとは言いがたく、また、渡り鳥のポイントを確認するまでに至らなかった。

- ・今回、1シーズンのみの調査では結論がでにくい
- ・ニュウナイスズメの群の通過など新しい知見が得られた

などから、来年度以降も継続して調査を行うことで、万博公園の春の渡り鳥を更に詳しく把握する必要があると考えられる。

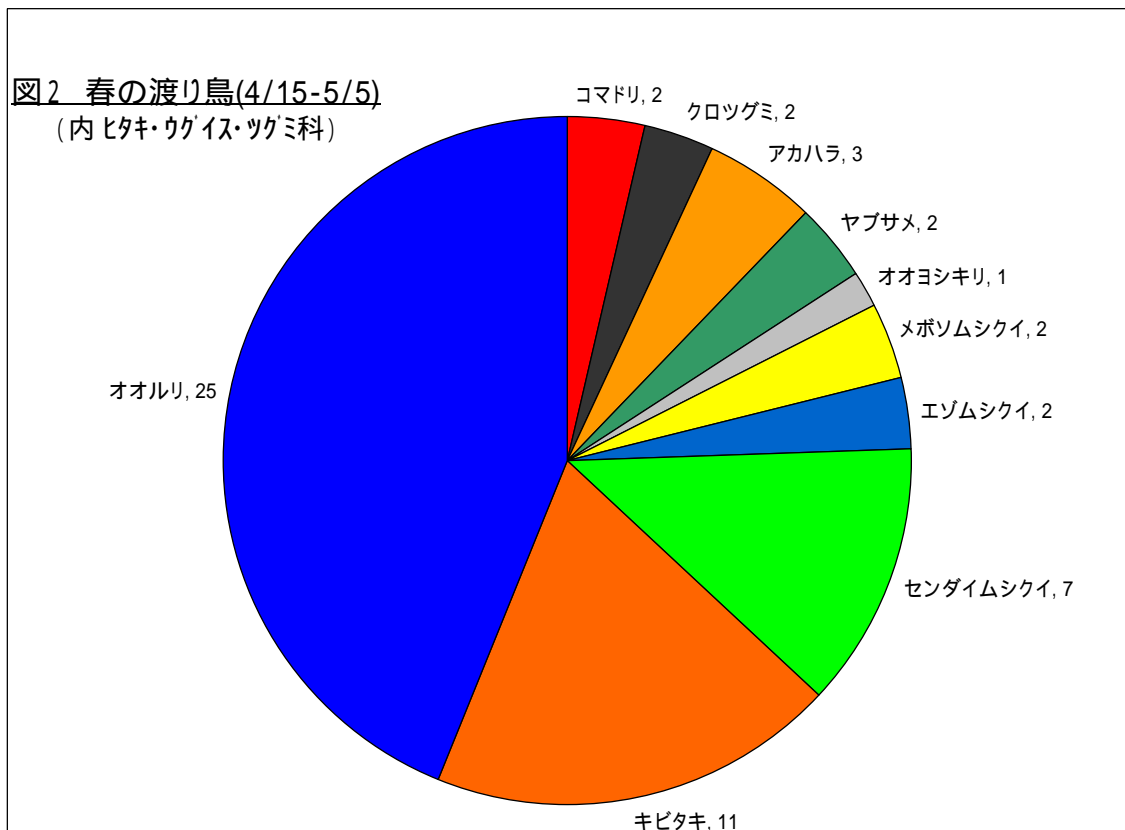
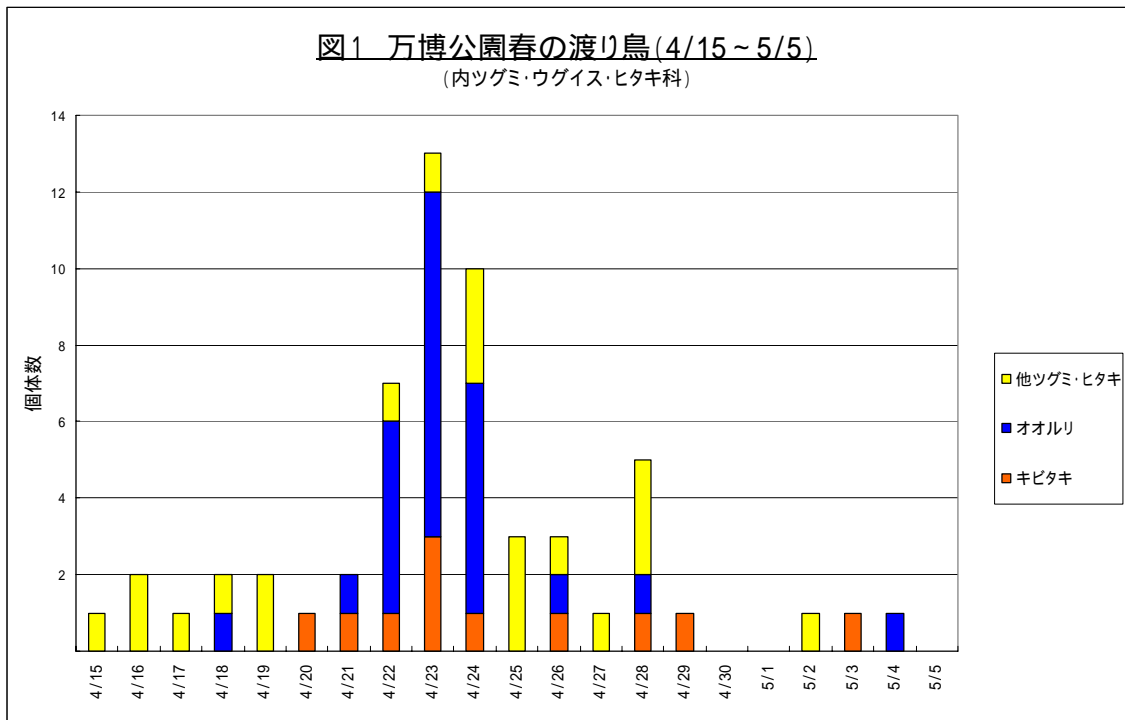
最後に、今回の調査に協力して下さった吹田野鳥の会メンバー16名の名を記し、感謝の言葉に代えたい。

荒谷和生・荒谷邦子・有賀憲介・稲波誠・卜部弘信・大吉五夫・大吉信子・
加藤俊二・北山弘司・塩田猛・田口實・玉置輝夫・中野義弘・中村正彦・
平軍二・廣瀬達也

表6 万博公園の春の渡り鳥

	月日	4/15	4/16	4/17	4/18	4/19	4/20	4/21	4/22	4/23	4/24	4/25	4/26	4/27	4/28	4/29	4/30	5/1	5/2	5/3	5/4	5/5	観察回数		
		羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	羽数		羽数	
1	ツグミ科 コマドリ											1	1										2	2	
2	ツグミ科 クロツグミ		1	1																				2	2
3	ツグミ科 アカハラ	1	1			1																		3	3
4	ウグイス科 ヤブサメ										1	1												2	2
5	ウグイス科 オオヨシキリ													1										1	1
6	ウグイス科 メボソムシクイ									1					1									2	2
7	ウグイス科 エソムシクイ										1				1									2	2
8	ウグイス科 センダイムシクイ				1	1			1		1	1			1					1				7	7
9	ヒタキ科 キビタキ						1	1	1	3	1		1		1	1					1			11	9
10	ヒタキ科 オオルリ				1			1	5	9	6		1		1							1		25	8
ヒタキの仲間 個体数 小計					1			2	7	13	10	3	3	1	5	1				1	1	1		49	13
11	チドリ科 コチドリ								3	1		1												5	3
12	ハタオリドリ科 ニュウナイスズメ								2	50		40	100	10										202	5
13	ホオジロ科 クロジ									1		1												2	2
種数計		1	2	1	2	2	1	2	5	6	5	6	4	2	5	1				1	1	1			
個体数計		1	2	1	3	2	1	2	12	65	10	45	103	11	5	1				1	1	1		266	

天候 小雨 晴 晴 晴 曇 雨 曇 晴 曇 雨後曇 小雨後曇 曇 晴 晴 晴 雨 晴 晴 晴 晴 晴



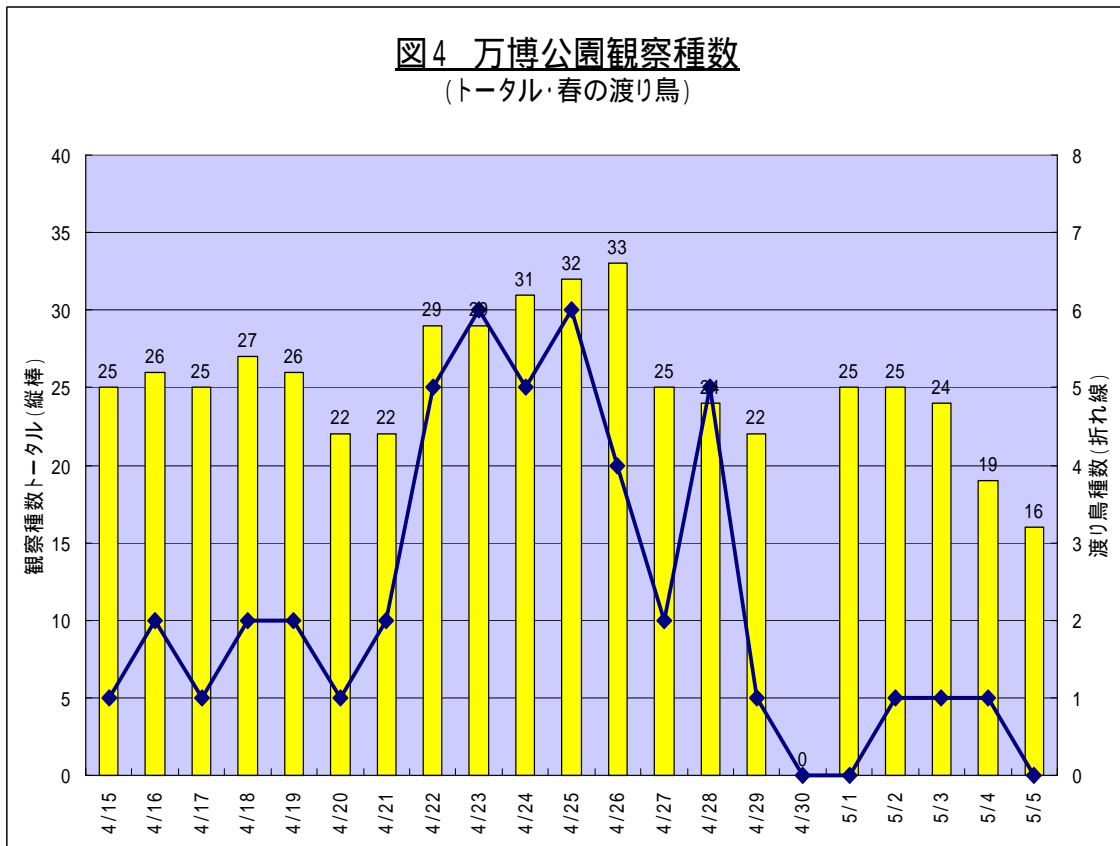
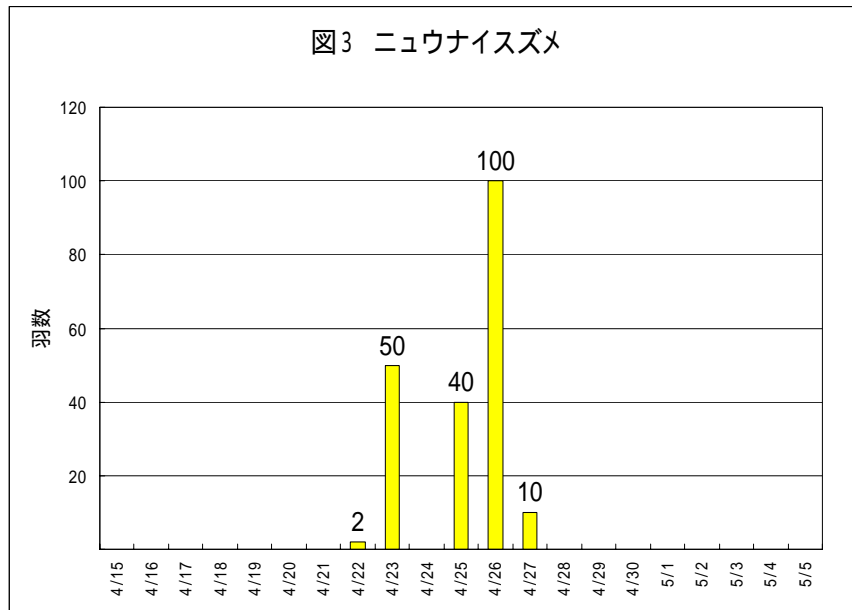


表7 調査時に観察した鳥リスト(全種)

	科名	種名	4/15	4/16	4/17	4/18	4/19	4/20	4/21	4/22	4/23	4/24	4/25	4/26	4/27	4/28	4/29	4/30	5/1	5/2	5/3	5/4	5/5	計	観察回数%	
1	カイツブリ	カイツブリ																						16	80%	
2	ウ	カワウ																						18	90%	
3	サギ	コサギ																						6	30%	
4	サギ	アオサギ																						15	75%	
5	カモ	マガモ																						9	45%	
6	カモ	カルガモ																						18	90%	
7	タカ	オオタカ																						2	10%	
8	クイナ	バン																						11	55%	
9	チドリ	コチドリ																							0	0%
10	カモメ	カモメSP																						1	5%	
11	ハト	キジバト																						18	90%	
12	ハト	アオバト																						1	5%	
13	カワセミ	カワセミ																						1	5%	
14	キツツキ	アオゲラ																						2	10%	
15	キツツキ	コゲラ																						19	95%	
16	ツバメ	ツバメ																						15	75%	
17	セキレイ	ハクセキレイ																						10	50%	
18	セキレイ	セグロセキレイ																						12	60%	
19	セキレイ	ビンズイ																						7	35%	
20	ヒヨドリ	ヒヨドリ																						20	100%	
21	ツグミ	コマドリ																						2	10%	
22	ツグミ	ルリビタキ																						1	5%	
23	ツグミ	トラツグミ																						1	5%	
24	ツグミ	クロツグミ																						2	10%	
25	ツグミ	アカハラ																						3	15%	
26	ツグミ	シロハラ																						14	70%	
27	ツグミ	ツグミ																						20	100%	
28	ウグイス	ヤブサメ																						2	10%	
29	ウグイス	ウグイス																						11	55%	
30	ウグイス	オオヨシキリ																						1	5%	
31	ウグイス	メボソムシクイ																						2	10%	
32	ウグイス	エゾムシクイ																						2	10%	
33	ウグイス	センダイムシクイ																						7	35%	
34	ヒタキ	キヒタキ																						9	45%	
35	ヒタキ	オオルリ																						8	40%	
36	エナガ	エナガ																						13	65%	
37	シジュウカラ	ヤマガラ																						10	50%	
38	シジュウカラ	シジュウカラ																						20	100%	
39	メジロ	メジロ																						20	100%	
40	ホオジロ	アオジ																						17	85%	
41	ホオジロ	クロジ																							0	0%
42	アトリ	アトリ																						3	15%	
43	アトリ	カワラヒワ																						19	95%	
44	アトリ	マヒワ																						7	35%	
45	アトリ	イカル																						13	65%	
46	アトリ	シメ																						10	50%	
47	ハタオリドリ	ニューナイスズメ																							0	0%
48	ハタオリドリ	スズメ																						19	95%	
49	ムクドリ	ムクドリ																						20	100%	
50	カラス	ハシボソガラス																						20	100%	
51	カラス	ハシブトガラス																						20	100%	
計			25	26	25	27	26	22	22	27	26	31	29	32	24	24	22	0	25	25	24	19	16	497		

内 春の渡り鳥種数 () 1 2 1 2 2 1 2 5 6 5 6 4 2 5 1 0 0 1 1 1 0

